



サステナビリティレポート保証

ビジネスビジョン

近年、サステナビリティ情報の外部開示やESG(環境・社会・ガバナンス)投資が増えるにつれ、サステナビリティレポート(CSRレポート)や統合報告書のデータの正確性、透明性に対する要求が高まる傾向にあります。経営層にとって、企業責任と持続可能な発展に関する課題は、見過ごすことのできないアジェンダとなりました。そのなかで、CDPやDJSIをはじめ格付け機関が企業のGHGの排出量や環境・社会パフォーマンスデータの信頼性を評価しており、第三者保証がそのスコアに大きく影響を与えるようになって来ました。さらに次々と制定される新しい法律や自主基準は、企業活動が環境や社会に与える影響に関して説明責任を果たすことを要求しています。ステークホルダーに向けて、企業のESG情報が正確であると信頼されるために保証は有効です。

ソリューション

第三者検証機関は、貴社のサステナビリティレポートに客観的な視点をもたらし、ステークホルダーに対して、レポートの情報が正確でバイアスがかかっていないことを保証します。また第三者検証機関は、レポートデータの保証にとどまらず、情報が適切であることを保証します。ビューローベリタスは、各社のサステナビリティ戦略の独自性に配慮し、お客様それぞれのニーズを確実に反映したテーラーメイドのソリューションをお届けします。その結果、サステナビリティレポートは信頼性を備えたものとなり、社内外のステークホルダーがそれらの情報に基づいて確信を持って判断し、意思を決定し、行動を取ることが可能となります。

ビューローベリタスが選ばれる理由

- 第三者保証業務への注力
日本国内にて2000年初頭から20年以上の間、第三者保証業務を提供、200件以上のプロジェクト経験があります。
- サステナビリティレポート保証のベストプラクティスプロバイダー
Account Ability(CSRやサステナビリティ分野の研究・コンサルティングを提供する非営利団体)、Verdantix社(英系・独立分析機関)、ACCA(Association of Chartered Certified Accountants: 英国勅許公認会計士会)などの機関から高い評価を得ています。
- 最新のベストプラクティスを参考とした保証手法の見直し
社内プロトコルのレビューを頻繁に行い、GHGの基準であるISO14064-3、非財務情報の審査に用いられるAA1000 AS、GRILレポートガイドラインG4、ISAE3000などの既存基準と最新のベストプラクティスへ適合させています。
- イノベーション、新たな発見、そしてパフォーマンスの改善へ
幅広い保証サービスを通して、第三者としての公平中正な立場で、各プロジェクトの特性および新しい基準と市場のニーズに応じたテーラーメイドのアプローチを提案。プロジェクト毎に、お客様のサステナビリティに関する戦略とパフォーマンスを保証し、リスクマネジメントと価値創造を強化、より戦略的で先見性のあるものとするためにサポートしています



保証手法

レポートに関するお客様独自のニーズに応じてテーラーメイドの保証をお届けします。

サステナビリティレポート分野における先進的な企業をクライアントとして積み重ねた経験と、ベストプラクティスに関する知見をベースに、開発した保証手法を用いて保証を行います。

組織にとってのメリット

外部に発信する情報の信頼性向上や各種格付の評価を高めることに加え、データマネジメントシステム(社内のデータを集める仕組み)のリスクを評価し弱い点を特定することで、健全なマネジメントシステムの運用を強化することができます。

さらに外部の目を入れることで、安心してデータを開示することができます。

よくある質問

Q: レポートデータ保証がもたらすメリットとは。

A: 外部審査機関が組織に対してこの規格を適切に運用しているかを審査することにより、自己宣言の客観性を高めることができます。

Q: サステナビリティレポート保証のための基準にはどのようなものがありますか。

A: さまざまな規格が存在しますが、サステナビリティレポート保証手法の開発のために、ビューローベリタスは以下に挙げる適用可能な複数の基準とベストプラクティスガイダンスを取り入れています。

- ・ ISO14064-3
- ・ ISAE3000(International Standard on Assurance Engagements 3000)
- ・ GRI G4(Global Reporting Initiative G3 Sustainability Reporting Guidelines)、AA1000 AS,2008 (Accountability's Assurance Standard)

ケーススタディ

Apple(アップル)

- | | | |
|-------------------|---------|---------------|
| ・ エネルギー 直接/間接 | ・ 廃棄物 | ・ 労働安全衛生の指標 |
| ・ 再生可能エネルギー | ・ 紙(使用) | ・ 女性のマネジメント比率 |
| ・ GHG SCOPE 1.2.3 | ・ 水(使用) | |

上記項目のデータ正確性の保証を実施しました。